

令和7年第3回当別町議会定例会一般質問通告一覧

令和7年9月定例会

順序	議員名	要 旨
1 番	山崎 公司	1 人口減少の影響と対策 【質問のねらい】 北海道医療大学が2028年4月に北広島市に移転すると発表されてから2年経過する。今後、移転後の地域の活性化や人口維持の為の新たな戦略が求められる。 【質問項目】 (1) 北海道医療大学移転後の町内の人口をどのように想定しているか。 (2) 総合計画による2030年の目標人口は、16,000人とあるが見直しの予定があるのか。 (3) 移転後、当別町への影響は人口面・経済面に非常に大きいと予想される。町内の経済損失は年間20億円以上と公表されているが、現状変化があるのか。 (4) 町内の経済損失による税収の減少、また上下水道料金の減収をどのように想定しているか。 (5) 経済損失を最小限にするため、現状どのような対策を検討しているか。 (6) JRの利用者が大幅に減少すると予想される。町内の公共交通の在り方が急務になる。現状どのように進行しているか。 (7) 人口増のため、子育て世代の移住増加を期待するため、現状の住宅購入支援金の増額や西当別地区（JR新駅・スウエーデンヒルズ）に大きな住宅分譲地域を展開する等の施策は検討出来ないか。 2 『北海道バレー構想』や『ラピダス』の当別町の役割 【質問のねらい】 北海道バレー構想は、半導体やデータセンターなどの先端技術産業を集積する国家的なプロジェクトで、中核を担うラピダスにおいて、2027年から本格的な量産予定である。このような状況で、今後、当別町の役割と可能性について質す。 【質問項目】 (1) 直接的な工場誘致の対象ではないが、周辺地域として、どのような役割が検討されているか。 (2) 人材育成・教育連携の拠点として、北海道医療大学跡地に技術者育成や研究連携の可能性がないか。 (3) 居住・生活環境の提供として、札幌に近いJR新駅周辺やスウエーデンヒルズ等に技術者や研究者の移住地として魅力的でないか。 (4) 札幌に近い地域に、テレワークやサテライトオフィスの拠点を検討出来ないか。 (5) 北海道バレー構想では、再生可能エネルギーの活用が最重要視されており、当別町の再生エネルギー資源も貢献してはどうか。

2 番	芳形 幸夫	1 当別町農業の将来像と方向性について 【質問のねらい】 交付金制度の見直しや価格変動を踏まえ、経営体、人材と雇用形態、農地の規模や集積の在り方、作物構成について当別町農業の将来像を質す。 【質問項目】 (1) 当別町にとって農業経営の在り方を問い直す転機にあると考える。米価の上昇、麦・大豆価格の下落、担い手減少などを踏まえ、当別町農業はどのような形を目指すか。経営体の在り方、人材と雇用形態、農地規模や作物について町長が描く将来像を伺う。 2 補聴器購入に対する、町独自の助成について 【質問のねらい】 軽度・中等度の難聴者は補装具費支給の対象外、補聴器購入時に医療費控除のみで自己負担を余儀なくされる。町独自の助成について質す。 【質問項目】 (1) 軽度・中等度の難聴者に対して補聴器の購入が、生活の質や認知症予防に大きな効果をもたらすことが指摘されている。町としてこのことについてどのように認識しているのか伺う。 (2) 高額な補聴器購入費用が普及の妨げになっている現状をふまえ、町独自に軽度・中等度の難聴者への補聴器購入助成制度を検討する考えはあるのか伺う。 (3) 石狩市では、介護保険事業計画策定に向けての利用者アンケートで「聞こえ」の項目を設け、加齢性難聴の状況把握をしていくと答弁があった。当別町も何らかの対応が必要と考えるが伺う。 3 非核平和都市宣言の実施と町の姿勢について 【質問のねらい】 戦後80年を迎え、全国で未宣言自治体は残り7%になっている。町として核を否定し平和の意思を示す必要性について改めて質す。 【質問項目】 (1) 2022年6月議会で、町長は宣言を見送る理由の中で「世界情勢の変化の中で、色々と考え方も多様化してきている」と答弁された。町長が言われた「多様化」には、どのような考え方が含まれているのか伺う。 (2) 全国の約93%の自治体がすでに非核平和都市宣言を行い、未宣言自治体は全体のわずか7%という現状において、 ① 当別町がこれまで宣言に踏み切らなかった経緯を伺う。 ② 戦後80年の節目に、非核平和都市宣言を行う意向について伺う。
-----	-------	--

3 番	五十嵐 信子	1 暮らしも、看取りも、地域で支える仕組みづくりを 【質問のねらい】 最期まで安心して暮らせる地域をつくるために、看取り支援を仕組み化し、学びの場を設け、当別版地域包括ケアシステムに位置付けていく必要があるのではないか。 【質問項目】 (1) 専門職のみに限らず、医療や介護の専門職と地域のボランティアが連携し、看取りを支える仕組みを作る考えはあるか、研究の進捗状況を伺う。 (2) 今後、共生型ボランティア養成講座を通して「看取りサポーター」の育成を進める考えはあるか伺う。 2 町内会等のデジタル化について 【質問のねらい】 人口減少や高齢化に伴い、町内会役員のなり手不足による組織が弱体化しコミュニティを維持することが年々難しくなっている。 【質問項目】 (1) 町内会等の地域コミュニティの弱体化について、どのような認識を持っているのか、また地域コミュニティを維持するための支援の必要性についてどのように考えられているのか伺う。 (2) デジタル技術を活用して持ち回りの回覧板を電子回覧板に移行してはどうか。 (3) 町内会は地域の安心と安全を守る重要な役割を担っていると考え、地域コミュニティの再構築についてどのように考えているか、また具体的にどのような取り組みを進めているのか伺う。
-----	--------	--

4 番	角田 広佑 (資料有り)	1 鳥獣保護管理法改正における町のヒグマ対策について 【質問のねらい】 鳥獣保護管理法が一部改正され、市町村長の判断による緊急銃猟が可能となった。町における今後の運用方針について質す。 【質問項目】 (1) 町内における昨今の熊目撃情報の数と、目撃時における鳥獣対応の手法について伺う (2) 改正法における市町村長判断の手順、指揮命令体制について伺う 2 新庁舎構想の現状について 【質問のねらい】 今年7月に新庁舎建設検討委員会より提言書が提出された。これに伴い、新庁舎建設の時期や方式など、今後の方針について質す。 【質問項目】 (1) 現庁舎設備は複数の破損箇所があるほか、労働環境も過酷な様態であり、早急な方針を示す必要がある。新庁舎の新築移転時期をどの時期までと考えているか。 (2) 今後町の人口減少が見込まれ、町職員の人数も縮減が見込まれる。またデジタル化やペーパーレス化による、保管場所面積のスリム化が求められる。新庁舎の建設規模について、町長の考えを伺う。
-----	-----------------	--

【計4人、2時間00分（1人30分計算）】